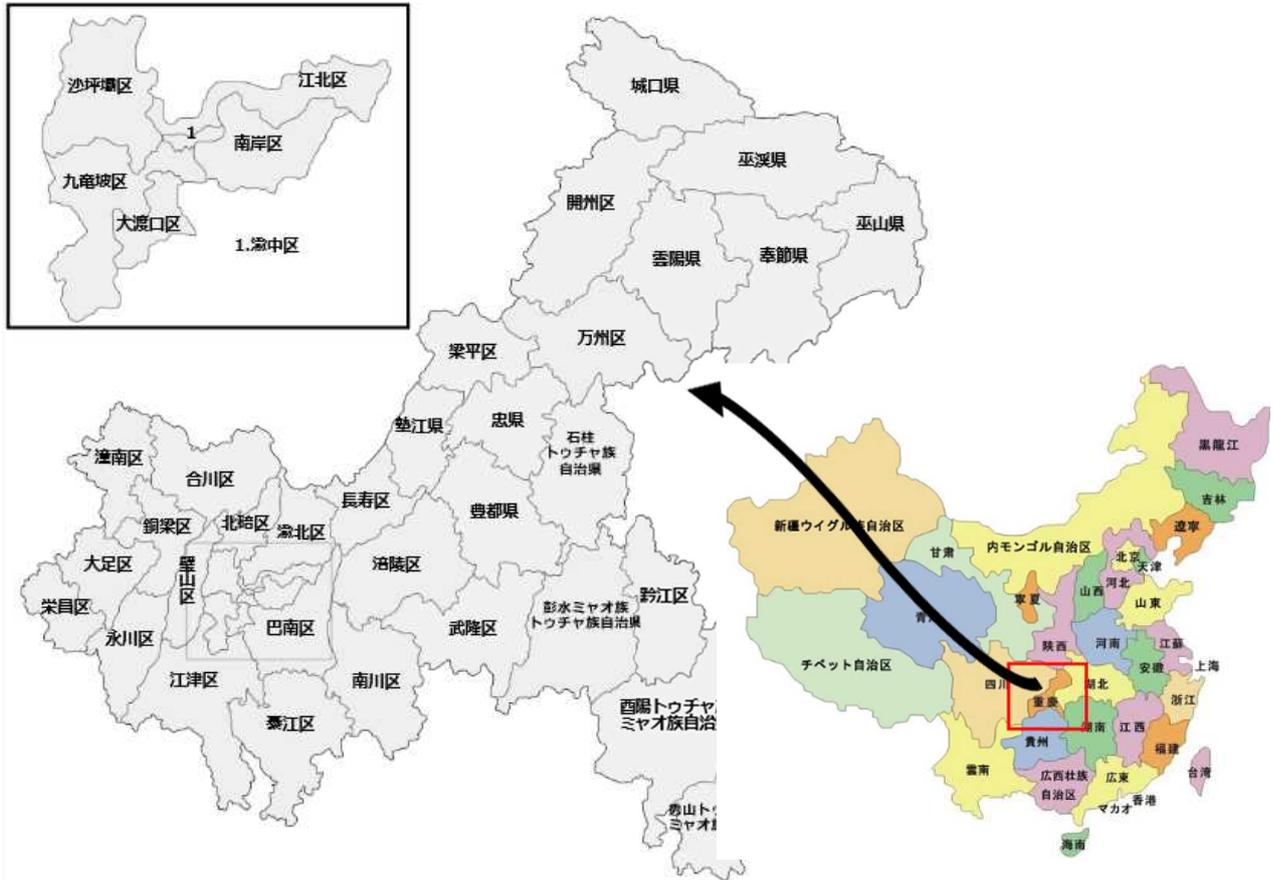


重慶市概況

2024年2月現在



1. 沿革等

- 1891年長江沿岸の港湾として対外開放され、1929年重慶市政府が成立。
- 1895年、清帝国は日清戦争の中で日本に負けて、当時4月の締結する「下関条約」の規定によって、重慶は日本に内陸の貿易港として開放された。同時に、イギリスとフランスがそれぞれ重慶で領事館区を創立した。
- 1938年12月18日から1943年8月23日にかけて、日本軍は重慶に対し断続的に無差別爆撃を敢行し（重慶爆撃）、民間人にも多数の死者が出た。うち防空壕内の混乱もあり、多数の犠牲者を出した6月5日を記念日とし、毎年6月5日にはサイレンを鳴らし慰霊式を開催している。
- 四川盆地の東南、中国一の大河長江の上流部に位置し、温暖湿潤気候。
- 地形の関係で霧が発生しやすいことや、傾斜地に開けた街であることから、別名「霧都」「山城」等と呼ばれる。
- 1949年11月30日、中国人民解放軍は重慶に入り、その後、重慶市は中華人民共和国の直轄市となった。1954年7月、重慶市は直轄市から地方都市と変更され、

再び四川省に併入された。

- 1997年3月14日、第8期の全国人民代表大会の第5回の会議で、もと四川省重慶市・万縣市・涪陵市・黔江地区を合併し重慶直轄市を設立する議案が可決され、6月18日に設立された。
- 四川省に属していたが三峡ダムの建設に伴って直轄市 1997年に直轄市となった。
- 近年は中国政府が推し進める「一帯一路」構想において、重慶を拠点に、欧州やASEANをつなぐ新たな物流網が急速に整備されている。
- 中国と欧州を結ぶ貨物鉄道「中欧班列」が、2011年に重慶とドイツ・デュースブルク間で運行を開始。（現在は重慶に加え、成都や西安、鄭州、武漢など、そのルートが大きく拡大している）「中欧班列」が開通したことで、中国から欧州へのリードタイムは大幅に縮減された。

2. 2022年主要基本指標（1人当たりGDPのみ2021年の数字）

- 略称：渝 Yu
- 天候：亜熱帯地域に属し、非常に蒸し暑く、年間平均気温は18℃ 1月の平均気温は8℃、7月の平均気温は29℃ぐらい。盆地であるが故に夏は酷暑となり7月の平均気温は28.3度に達し、湿度も高く非常に蒸し暑く不快指数は非常に高く、日中は猛暑日となり、最低気温が30度を下回らないことも珍しくない。いずれも長江流域の武漢、南京と並んで「三大火炉」と呼ばれている。冬季の1月の平均気温は7.9度、平均最低気温は6.2度と内陸盆地に所在するにもかかわらず、かなり温暖である。これは秦嶺山脈が北からの寒気を遮ることと、日照時間が少なく常に曇っているため、放射冷却が少ないからである。年中曇りや雨の日が多く、中国で最も日照時間が少ない都市のひとつである。
- 中国にある4つの直轄市（北京市・天津市・上海市・重慶市）のうちのひとつ
- 面積：8.24万平方キロメートル、38区県（26区、8県、4自治県）
- 常住人口：3,213.34万人（年末常住人口）
うち都市部の人口は2,280.32万人（全体の70.96%）、
農村人口は 933.03万人
- 出生率：5.98%、死亡率8.09%、人口自然増加率：▲2.11%
- 域内総生産(GRP)：2兆9,129.03億元（前年比4.4%増）
- 1人当たりGRP：8万6,879元（前年比7.8%増）
- 第一次産業：2,012.05億元（前年比4.7%増）
- 第二次産業：1兆1,693.86億元（前年比4.6%増）
- 第三次産業：1兆5,423.12億元（前年比4.3%増）
- 農業生産額：1,881.78億元（前年比6.9%増）
- 林業生産額：176.42億元（前年比4.9%増）
- 畜産生産額：800.94億元（前年比▲0.4%）
- 漁業生産額：136.99億元（前年比▲0.9%）

3. 主要開発区など

国家級開発新区

- 重慶・両江新区 (<http://www.liangjiang.gov.cn/>)
 - ✓ 中国内陸部の最初の国家級開放新区
 - ✓ 2020年で設置10周年
 - ✓ 2,000社近くの外国企業が登記、登録就業人数は6,000人を超え、登録資金は70億元(2019年末現在)
 - ✓ 「2019年全国双創示範基地評価」の第三者評価で全14新区中第1位を獲得
 - ✓ ハイエンド・高品質・ハイテク産業と「クラウドコンピューティング」コンポーネントの統合促進によって、新時代の西部地域開発の柱、「一帯一路」構想の推進力、また、長江経済ベルトにおける持続的開発推進のモデルになっている
 - ✓ エレクトロニクス産業は両江新区の基幹産業の1つであり、新区は電子端末・サポート産業チェーン企業の本拠地になっている

自由貿易試験区

- 中国(重慶)自由貿易試験区両江新区片区
(<http://ljt.liangjiang.gov.cn/service/detail/2008?chapterNum=1>)
 - ✓ 計画用地面積は86.33km²で、全市の71.95%を占める。開発用地は50.46km²で、そのうち譲渡用地は24.62km²
 - ✓ 新型金融・ハイエンド製造業・現代物流・生産性サービス業・国際貿易・クラウド計算及びビッグデータ・健康医療・科学技術イノベーションを8大支柱としている
- 中国・シンガポール(重慶)戦略性互聯互通示範プロジェクト
 - ✓ 2015年に政府レベルで合意した、金融サービス、航空、運輸、ロジスティクス及び通信技術(ICT)など5分野での協力を推進するプロジェクト
 - ✓ プロジェクトの一環である「南方回廊」は、現在では重慶市をハブとして中国西部からASEAN諸国への物流を拡大する新輸送網として機能している

国家級開発区

- 重慶ハイテク産業開発区
 - ✓ 全国に五つある「総合改革試点開発区」のひとつ
 - ✓ 主として電子情報、バイオ医薬、新材料、機電一体化等の分野に取り組む
 - ✓ 日本、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア、シンガポール、香港、台湾等からの「三資企業」が300社以上進出
- 重慶経済技術開発区
(<https://baike.baidu.com/item/%E9%87%8D%E5%BA%86%E7%BB%8F%E6%B5%8E%E6%>)

8A%80%E6%9C%AF%E5%BC%80%E5%8F%91%E5%8C%BA)

- ✓ 中国西部地区で最初に設立された国家級経済技術開発区
- ✓ ハイエンド設備製造産業、現代情報技術産業、現代サービス業を3大主要産業としている
- ✓ 2020年1月17日、国家級経済開発区総合発展レベルトップ30入りを果たした

- 璧山ハイテク産業開発区

スマート設備、情報技術、ライフヘルス産業を推進

- 永川ハイテク産業開発区

2017年、国家工業味のットハイテ産業化基地に認定

- 榮昌ハイテク産業開発区

中国（重慶）眼鏡産業園を設立

- 万州経済技術開発区 (http://wzjqk.cq.gov.cn/main/wzweb/jggk/1_4487/)

計画用地面積 58.56 km²

- ✓ 現在 312 社の企業が入居。うち、58 社が工業企業
- ✓ グリーン照明、スマート装備、食品医薬、自動車、新材料などの五大重点産業をメインとして発展

- 長寿経済技術開発区 (<http://www.cetda.cn/>)

- ✓ 管理サービス面積 80 km²
- ✓ 総合化学工業（バイオ医薬）、新材料・新エネルギー、鉄鋼、装備製造、電子情報の五大重点産業
- ✓ 410 社を誘致し、うち、世界 500 強企業 22 社、多国籍企業 43 社、上場会社 47 社
- ✓ 契約金額は 3,850 億元で、うち戦略新興産業は 38.5% を占める

その他

- 重慶両路寸灘保税港区 (<http://www.ccfta.com/index.htm>)

空港機能区



港湾機能区



- ✓ 計画面積は 40 km²で、港湾機能区と空港機能区の二つの部分から構成される
- ✓ 重点産業は、加工貿易・現代物流・サービス貿易
- ✓ コンテナの輸出入総量は 100 万台に達し、保税物流の貨物価値は約 250 億元

- 重慶西永微電子産業園区 (<http://www.xiyongpark.com/>)
 - ✓ 国内計画面積が最大の微電子産業園区
 - ✓ 重慶市西部に位置し、計画面積 43.8 km²、うち産業区は 26.9 km²
 - ✓ 工業総生産額は 1,888.5 億元で、9.5%増、対外貿易輸出入総額は約 2,577.6 億元で、全市の 44.5%を占める
- 江津総合保税区
- 涪陵総合保税区
- 団結村鉄道保税物流センター（B型）
- 南彭道路保税物流センター（B型）
- 重慶果園港保税物流センター（B型）
- 検査・実験・検疫総合改革試験区

4. 主な指導者

➤ 袁家軍（えんかぐん）書記

生年月：1962年9月（61歳）

出身地：吉林省通化市

最終学歴：北京航空航天大学

民族：漢族

主な職歴：

- 2003-2007年 中国航天科技集団第五院院長、党委員会副書記（神舟2号～5号宇宙船システム最高指揮官）
- 2007-2012年 中国航天科技集団副總經理、党組メンバー
- 2012-2013年 寧夏回族自治区党委員会常務委員、寧東能源化工基地党工委書記
- 2013-2014年 寧夏回族自治区党委員会常務委員、自治区政府常務副主席、自治区政府党組副書記、寧東能源化工基地党工委書記
- 2014年 浙江省党委常務委員、副省長候補
- 2014-2016年 浙江省党委常務委員、副省長、省政府党組副書記、浙江省行政学院院長、省委政法委副書記
- 2016-2017年 浙江省党委副書記、省委政法委副書記
- 2017年 浙江省党委副書記、代理省長、省政府党組書記、省委政法委書記
- 2017-2020年 浙江省党委副書記、省長、省政府党組書記
- 2020-2022年 浙江省党委書記、省人大常委主任
- 2022年- 中央政治局委員、重慶市党委員会書記

※第17期中央候補委員、第19期・第20期中央委員、第20期中央政治局委員

- 胡衡華（ここうか）市長
 - 生年月：1963年6月（60歳）
 - 出身地：湖南省衡南県
 - 最終学歴：湖南大学
 - 民族：漢族
 - 主な職歴：
 - 1999-2005 湖南衡陽鋼管（集団）有限公司執行董事、総経理
 - 2005-2008年 湖南省経済委员会主任、党組書記
 - 2008-2009年 湖南省益陽市党委副書記、代理市長
 - 2009-2011年 湖南省益陽市党委副書記、市長
 - 2011-2013年 湖南省発展・改革委员会主任、党組書記
 - 2013-2014年 湖南省長沙市委副書記、市政府代理市長
 - 2014-2016年 湖南省長沙市委副書記、市政府市長
 - 2016-2017年 湖南省委常務委員、省国有資産監督管理委員会党委書記
 - 2017-2020 湖南省委常務委員、長沙市委書記
 - 2020-2021年 陝西省党委副書記
 - 2021-2022年 重慶市委員会副書記、市政府副市長兼市長代行
 - 2022年- 重慶市委員会副書記、重慶市市長、党組書記

※第19期中央候補委員、第20期中央委員

6. 重慶市と日本

- 邦人長期滞在者数：約268人（2020年10月現在）
- 日系企業数：約225社（2020年10月現在）
 - 本田技研工業、いすゞ自動車、ヤマハ発動機、日立製作所、矢崎総業、東亜DKK、東芝、ファナック、日本通運、ローソン、三井住友銀行、三井物産、住友商事、伊藤忠商事、双日 等
- 友好提携：重慶市－広島市（1986年）
 - 重慶市－茨城県水戸市（2000年）
 - 重慶市江津区－宮崎県都城市（1999年）
 - 重慶市巴南区－新潟県三条市（2019年）
- 直行便：重慶－成田、重慶－沖縄（中国国際航空）
 - 重慶－成田、重慶－大阪（春秋航空）
 - 重慶－大阪（西部航空）

7. 日中経済協会との交流

《覚書》

調印日	名称	協会調印者	中国側調印者
2009. 11. 8	財団法人日中経済協会と中国・重慶市人民政府との省エネルギー・環境分野の交流と協力の強化に関する覚書	清川佑二理事長	重慶市人民政府 王鴻拳市長

《訪中団》

日時	最高顧問、団長	参加人数 (地方)	地方訪問先
第 21 回 1995. 9. 17-24	最高顧問 豊田章一郎名誉会長 団長 河合良一会長	104 (30)	重慶、湖北(三 峡、武漢) 9/20-24

《交流実績》※2007 年以降

日時	内容
2007. 9. 24-25	南直哉(財)省エネルギーセンター会長(JC-BASE 副会長、東京電力顧問)を団長とする視察代表団(33名)を派遣し、黄奇帆常務副市長らと会談。(重慶市経済委員会)
2008. 1-3	第 2 回フォーラム報告書の配布を受け、視察参加企業(富士電機、日揮)より、事務局に関心表明があり。特に、日揮は技術担当理事が重慶市経済委員会を訪問し、フォローアップ面談に当会上海事務所長、成都事務所代表が同行。(重慶市経済委員会) (重慶市は 2008 年 5 月の四川省大地震により、物流等支援基地となったことから、省エネ環境ビジネス推進事業は延期)
2008. 11	王鴻拳重慶市長が来日し、清川理事長から改めて省エネ・環境ビジネスプロジェクト推進の意向を表明。(対外貿易経済委員会)
2009. 1. 15-17	事務局(事業開発部部長ら)が訪中し、対外貿易経済委員会の宋暁国副主任らと面談し、事業について改めて説明。(対外貿易経済委員会)
2009. 5. 12-14	重慶市・商務部主催で行われた「第 12 回中国(重慶)国際投資グローバル調達フェア」のなかで、関心を表明した日本企業 5 社とともに「環境産業マッチングセッション(5月14日)」を実施。(対外貿易経済委員会)
2009. 6. 25	重慶市長寿区韓樹明区長ご一行が来会し、重慶(長寿)化工園区の省エネ・環境プロジェクトに関心を表明した日本企業 3 社と交流会を実施。(対外貿易経済委員会)
2009. 11. 5-7	南直哉(財)省エネルギーセンター会長(JC-BASE 副会長、東京電力顧問)を団長とする重慶フォーラム視察代表団(81名)を派遣し、周慕冰副市長との会見や化学・ガス、石炭、汚泥処理のテーマごとにマッチングセミナーを開催。(対外貿易経済委員会)
2010. 3. 1-10	重慶市対外貿易経済委員会の白小玲副巡視員を団長とする「重慶市省エネ環境視察代表団」(23名)が訪日。省エネグループ・環境保護グループの 2 グループに分派して企業視察を行い、東京と大阪でマッチングセミナーを開催。(対外貿易経済委員会)
2010. 4	黄奇帆重慶市長が来日し、当会会員企業をはじめとした日本企業トップと昼食懇談会を開催。(対外貿易経済委員会)

2010. 5	商務部・重慶市人民政府が主催する「第 13 回中国（重慶）国際投資グローバル調達フェア」の一環として開催された「省エネ環境保護産業プロジェクト・資金調達マッチング商談会（5 月 21 日）」に関心ある日本企業 13 社 24 名とともに参加。（対外貿易経済委員会）
2011. 5	商務部・重慶市人民政府が主催する「第 14 回中国（重慶）国際投資グローバル調達フェア」の一環として開催された「緑色低炭素建築シンポジウム・商談会（5 月 19 日）」に関心ある日本企業 5 社 12 名とともに参加。同時開催された「重慶—日本ハイレベル懇談会」には、重慶市とともにご案内した結果、40 数社が参加。（対外貿易経済委員会）
2011. 9	重慶日本電機電子パークへの日本企業の誘致を目的に商委、外経貿委副主任らと来日。当会会員の電子企業を手配し、訪問。（対外貿易経済委員会）
2011. 11. 30-12. 8	重慶市江北区章曉風常務委員を団長とする「重慶市グリーン建築視察訪日団」（21 名）が訪日。東京、大阪で企業視察及びセミナーを開催し、セミナーには約 60 名の日本企業・団体の参加があり、個別商談セッションを実施。（対外貿易経済委員会）
2011. 12	岡本理事長が重慶市を訪問し、両江新区等を視察後、白小玲対外貿易経済委員会副巡視員らと意見交換を実施。（対外貿易経済委員会）
2012. 5	商務部・重慶市人民政府が主催する「第 15 回中国（重慶）国際投資グローバル調達フェア」の一環として、市対外貿易経済委員会と日中経済協会が主催し開催した「日中自動車及び部品リサイクル（重慶）協力フォーラム（5 月 18 日）」に、日本企業から延べ約 60 名が参加。事前に、長安汽車や中国自動車工程研究院（CAERI）の視察を行うとともに、重慶市の自動車リサイクル分野の所管である市商業委員会及びこのイベントに参加する為に重慶を訪問した吉林省廃自動車サービスセンター及び関連企業と意見交換会を実施。（対外貿易経済委員会）
2012. 9. 27	「第 13 回西部国際博覧会」参加訪中の視察の一環として、日中経済協会と（一財）省エネルギーセンターが主催し、重慶市政府の後援で開催する「日中低炭素社会セミナー（省エネルギーセッション・重慶）」に、日中双方 100 名の参加が見込まれていたが、尖閣諸島をめぐる日中関係の悪化により、中止。（対外貿易経済委員会）
2012. 12	対外貿易経済委員会・張西建副主任一行が、日本の電子・電機産業、省エネルギー・環境保護産業に関する政策や技術等への理解を深めると同時に、協会との覚書を踏まえて今後の協力体制の強化について意見交換を行いたいとの意向を受け来日受け入れ予定だったが、尖閣諸島をめぐる日中関係の悪化により、中止。（対外貿易経済委員会）
2015. 3. 16	対外貿易経済委員会・李謙副主任一行 11 名が来会し、生田専務理事と重慶市の発展政策や、当協会との今後の具体的な協力内容について意見交換を行い、2013 年に《重慶市ロボット産業発展推進の指導意見》が公布されるなど、今後ロボット産業の飛躍的な発展を見込まれるのを受け、午後には（一社）ロボット工業会を往訪。（対外貿易経済委員会）
2019. 5. 29	唐良智市長を団長とした政府や企業関係者でつくる代表団が来日。当協会と共催で「重慶-日本経済交流懇談会」を開催し、日本側は、宗岡正二会長以下 19 人が出席。（商務委員会）

出所：重慶市人民政府網 <http://www.cq.gov.cn/>

重慶市統計局 <http://tjj.cq.gov.cn/>

重慶市 2019 年国民経済・社会発展統計公報

<http://www.tjcn.org/tjgb/13fj/36233.html>

在重慶日本国総領事館

https://www.chongqing.cn.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

重慶日本商エクラブ

<http://www.cqjclub.com/>